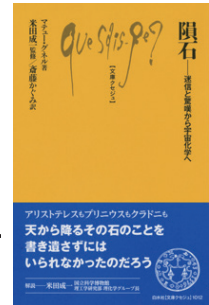


書評

隕石－迷信と驚嘆から宇宙化学へ

マテュー・グネル著 米田成一監修/齊藤かぐみ訳
文庫クセジュ 白水社
2017年5月 総150頁 ISBN9784560510124

野口 高明¹



隕石についての知識が手短かにまとめられた日本語の本は非常に少ない。そんな中で出版されたのが本書である。南極微隕石(宇宙塵)の研究、消滅核種に関する研究から、歴史文献を踏まえた上でのオルゲイユ隕石の彗星起源説などにいたる彼の幅広い興味の対象と知識にもとづいて、隕石についての様々な事柄が新書版サイズに凝縮されている。個人的には、人々がどのように隕石を「地球外からやって来た石」であると認識しその重要性が認識されていったかという歴史についての章を特に興味深く読んだ。もちろん、惑星科学と宇宙化学の基礎知識、隕石の落下・採集、隕石の起源、コンドライトの構成要素(コンドルールやCAI)の形成年代と太陽系形成、母天体における衝撃や分化、隕石に含まれる有機物や水と生命の起源についての各章も、短いながらもうまく題材を選びつつ高度な議論(²⁶Alや¹⁰Beの起源など)まで到達することができている。

全体的にはとてもよく書かれている本書だが、多少気になった点が2点ある。ひとつは隕石の分類でユレイライトが分化隕石に分類されていることである(21ページ)。これは、むしろ、始原的エコンドライトに分類した方が良いという説もある。もっとも、この点については、著者も「物質進化した岩石の特徴と、始原的な岩石の特徴が共存しているわけだが(117ページ)」と述べており、どちらに入れるか悩んだのかも知れないが、また、111ページで普通コンドライトの岩石学的タイプを3から7としているが、これは3から6とすべきであろう。なぜなら、岩石学的タイプ7の多くは衝撃溶融岩と考えられるからである[1]。

とはいえ、惑星科学、特に惑星物質科学をこれから学んでみたいという学部生にとっては、手取り早く一通りのことを知るのにちょうどよい本であることはまちがいない。遊・星・人の読者層にとっても、「エポックメイキングな隕石たち」のコラムを読む際の参考になると思う。広くお勧めしたい。

参考文献

- [1] 木村真, 2011, 遊星人 20, 132.

1. 九州大学基幹教育院
tnoguchi@artsci.kyushu-u.ac.jp